

# オラクルの モダナイゼーションアプローチ

オープンシステムやSOA(サービス指向アーキテクチャ)、仮想化・統合化など、最新テクノロジーを活用したIT変革が加速するなか、IT予算の多くを費やしているレガシー・アプリケーションの運用と維持コストをいかに削減するかが大きな課題となっている。企業が抱えるこのような課題を解決するため、オラクルは、レガシーシステムからのマイグレーションやトランスフォーメーションについて、標準プロセスによるITモダナイゼーションをソリューション展開している。

## レガシーマイグレーション

### オラクルが提供する5つのモダナイゼーション・アプローチ手法

ITインフラの仮想化、SOAの導入、クラウドコンピューティングへの対応など、企業はITシステムの変革を加速しているが、既存のミッションクリティカルな業務システムをいかに柔軟性や汎用性のある新しいIT環境に移行するかが喫緊の課題となっている。このプロセスは、一般的に「ITモダナイゼーション」と呼ばれている。

日本オラクル テクノロジーソリューションアーキテクト本部の松本修也本部長は、「弊社では、図1-1に

示すように、リホスト、コードのリライト、システム全体を再設計するリアーキテクチャ、ERPやパッケージを利用するCOTS、アプリケーション連携を実現するSOA化の5つのモダナイゼーションのアプローチ手法を考えています」と語る。

アプローチ手法のタイプによって、移行のスピードや変化の大きさは異なる(図1-2)が、顧客のあらゆる状況・ニーズに応じた最適な方法で、既存の古いプラットフォーム(メインフレームや過去に作られたオープン系システム)を最新のスタンダードな技術に基づくIT環境の



日本オラクル株式会社  
ライセンス事業推進統括本部  
テクノロジーソリューションアーキテクト本部  
本部長 松本 修也氏

上に移行しようというのが、オラクルのアプローチだ。

システムの移行は、現行システムの棚卸し調査→現状分析→移行方針の検討→次期システムとして最適な

【Oracle Modernizationのタイプ】

手法	概要	コード変更	業務変更	移行負荷
Re-host (リホスト)	業務ロジック部分をソースコード変更を行わずに稼働環境を移行する。但し、DBやMW等のインタフェースは変更する必要あり。	小	無	小
Re-Write (リライト)	同一のビジネスロジックをプログラミング言語を変えて実現する。但し、DBやMW等のインタフェースは変更する必要あり。	有	無	中
Re-Architecture (再構築)	仕様書をもとにシステム全体を再設計する。負荷・期間ともに大きい。	有	無	大
COTS <sup>(※)</sup> (ERP・PKG導入)	業務全体または一部をERP等のパッケージへ移行する。(通常はBPPFを伴う) ※Commercial Off The Shelf:本来は軍用システムにおける民生品利用の意	有	有	中
SOA Enabled (アプリケーション間連携)	リアルタイム接続等のアダプタを使用することによって、オープンシステムプラットフォーム上のシステムとのアプリケーションの連携を実現する。(メインフレームの継続使用を前提)	無	無	小

図1-1 モダナイゼーション・アプローチ手法

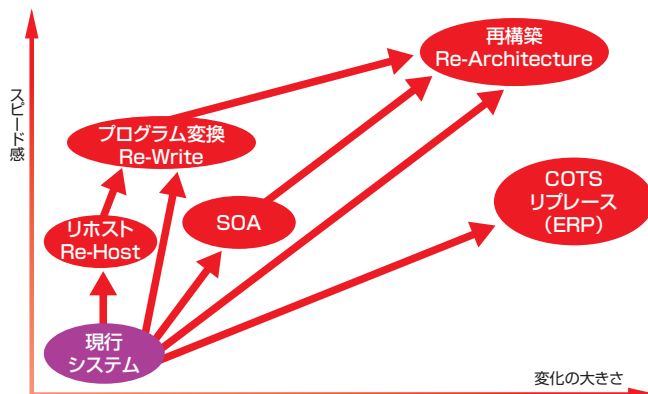


図1-2 ロードマップ

続きは本誌でご覧下さい。